

# 園長のまなざし

## 第一回

### 冬空をのぼるあなたへ

向山陽子

新しいあなたを迎える、新しい朝が大好きです。

おうちでは末っ子のあなたが、お母様の熱い視線を感じながら「エイッヤツ」と一人の「良太」に変身して、友達の中へ入っていくさまがよく見える玄関の朝だから。

太陽や雨や木、水、土、火、風を、体中に感じて遊ぶのが大好きなあなたは、はだしになり裸になって友達と感じ合い、言葉ではなくコミュニケーションでできる仲間を育み合ってきたね。すごいよ。

パンツ一丁で大地に座り込んで泥んこをこねくり回し、満面の笑顔で笑い合っていたのは、ついこの前のこと。

きつぱりと冬が来た時、葉を脱ぎ捨てて枝を天に伸ばした冬木立に守られて、一月の真っ青な空に向かってのぼるあなたがいた！

あなたへと差し出す友達のまなざしと心もちが、羨ましい。



五歳になったばかりのあなたたちは、もう一回ずつこの幼稚園で春と夏と秋と冬とを過ごせるね。

走ることも、作ることも、描くことも、話すことも、思いやることも、けんかすることも、話し合うことも、力を合わせることも、もつと上手になって、培ってきた力が見えてくるのが楽しみです。

大きく枝を張る木は、見える枝と同じだけの根っこを見えない土の下に、深く広く張ると云います。

今のうちに、もつともつと、根を張っておこうよ。ゆっくりゆっくり、深く、広く。

それは、あなたたちの人生の根っこ。そして、根っこを張ったこの幼稚園はあなたたちのもう一つの故郷。

私にできることは、新しいあなたたちを、まぶしい思いで見つめることだけ。幸せです。

(東京都 大和郷幼稚園)